

平成30年8月6日付【水道産業新聞】  
 <水コン協 安井教授、西澤氏が講演>  
 パラダイムチェンジテーマに

# パラダイムチェンジテーマに

水コン協 安井教授、西澤氏が講演



西澤氏



安井教授

全国上下水道コンサル  
 タント協会主催による

「下水道事業のパラダイムチェンジに向けて」が7月27日、北九州市内の会議室に下水道関係者約100人を集めて開催された。安井英吾・北九州市立大学国際環境工学部教授、西澤政彦・NJSS執行役員開発本部経営コンサルタントテイング部長の両氏がそれぞれのテーマで講演した。

冒頭、同協会の村上雅亮・会長（NJSS社長）が「下水道も維持管理の時代を迎え、大きく変わろうとしている。水コン協としても自ら発想の転換を図り、下水道事業のさらなる発展に貢献したい」などとあいさつした。

講演では、安井教授が「低コストで省資源の下水処理場を具現化するための限界設計技術」と題して、ベトナムで省資源型下水処理プロセス（散水濾床）の共同研究を開始した背景、システムの概要、東南アジア市場の下水処理システム設計における課題（汚水原単位を高精度で測定できないため、最終設計が困難）、国交省「G A I A」プロジェクトで開発した汚泥組成から原水組成を逆算することで汚水原単位を高精度で測定する方法などを紹介した。

そのうえで、安井教授は「競争力の高いコンサルテイングを行うには、まず対象の汚水原単位を正確に把握したうえで限界設計を行い、それに都市の時系列的発展など合理的判断に基づいた余裕を付加したシステム構成にすることが重要である」と指摘した。

西澤氏は「下水道事業における多様な連携手法」をテーマに、下水道におけるパラダイムチェンジ（人口減少、建設から管理の時代へ、改築需要の増加など）、パラダイムチェンジに対応するための広域化・共同化形態と具体的事例、官連携（PPP）の手法導入の意義、手法別実例、PUP（広域連携とPPPの組み合わせ）などを紹介した後、「一人一人が持てる力で、減少社会においても持続できる下水道、地域の発展に積極的に貢献できる。その実現のためには新しい発想が必要となる」と強調した。